スマートウェルネスシティ協議会

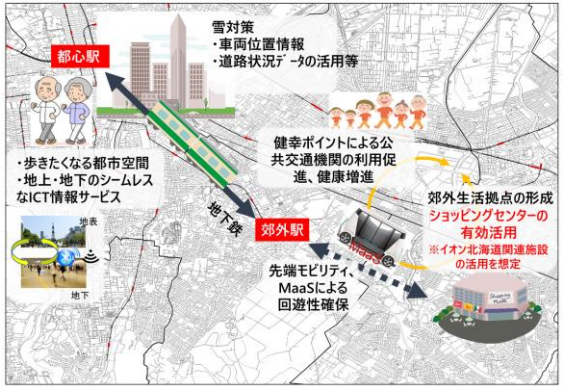
【地方公共団体：札幌市　民間事業者等代表：日建設計総合研究所】

国土交通省 スマートシティモデル事業
先行モデルプロジェクト

○　市の調査によると、運動が習慣化されている市民の割合は低く、健康寿命は政令市の中でもワースト3となっている。近年、自動車分担率が増加（H6:50.2%→H17:55.6%）しており、地域公共交通の衰退が課題。また、市の中心部においては、地下と地上の回遊性と、地下・地上が一体となった賑わい創出を図ることが課題となっている。
○　徒歩や公共交通利用を中心とした環境を実現し、市民が日常の中で自然と健康になることができる取組を推進。

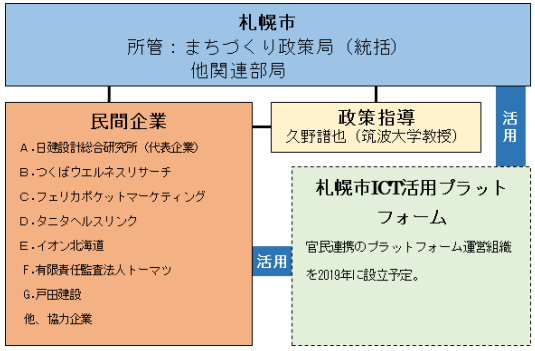
◆対象区域

市の中心部および郊外



◆事業実施体制

札幌市・民間企業・学識（政策指導）・データプラットフォームによる体制



◆新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

健幸ポイントとの連携

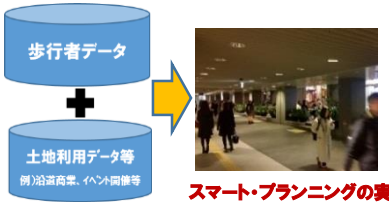
・「健幸ポイント」をインセンティブとして歩くことや公共交通利用への行動変容の促進
・H30年度は地下空間の計測であったが、今年度は地上空間での計測に拡大

スマートプランニングの実践

・「健幸ポイント」との連携により得られる人流データや施設データ、健康データを用い、市民の移動・滞留行動の予測モデルを構築
・上記と連動し、都心部や郊外のイベントの評価分析を実施

歩きたくなる都市空間の整備

・スマート・プランニングの手法により、データオリエンテッドな都市施設・交通機関の整備・運営。地下と地上の回遊性向上を図るため、空間の評価を実施。
・市民の歩行促進により、健康増進とにぎわいを向上
・データ活用と関係者連携による効率的な雪対策の実践



健康データクラウドの構築と健康アドバイスの実施

・国保や協会健保などの健康ビッグデータを「健康データクラウド」で一元管理
・健康度評価と都市空間を重ねて分析することにより健康長寿視点のまちづくりを検討

データプラットフォーム

・「札幌市ICT活用プラットフォーム」を官民連携によって持続的に運営するため、一般社団法人を設立し、事業検証、データ提供を進める
・取得する人流データのオープンデータ化の推進

◆2019年度の主な取組

・ポイントインセンティブを含めた健康行動促進に関する事業の企画
・地上・地下の人流データを組み合わせた人流分析手法の有効性の評価によるスマートプランニングの実施